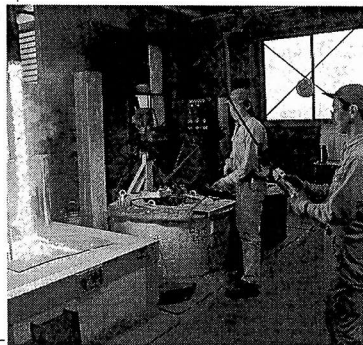


金属熱処理「車以外」を開拓

部品少ない電気自動車普及にらむ

金属熱処理メーカーが自動車以外の市場を開拓する。アルミの加工技術を開拓して航空部品や鉄道車両に売り込み、高い強度を持たせる新手法で発電設備向けの案件を振り起こす。現在はエンジンやミッションの加工を中心に受注の大半が自動車用。電気自動車の時代になれば熱処理を必要とする部品が大幅に減るため、「脱自動車」を急ぎ、将来の市場の激変に備える。



自動車に依存しない体質作りが各社共通の課題となっている
(東京都大田区の上島熱処理 業所)

色あせた写真復元 早く

ホットアルバムコム ネット経由で

ソフトウェア開発のホットアルバムコム(東京・八王子、小星重治社長)は28日、インターネット経由で古い写真を復元・修整するサービスを始める。独自開発の解析ソフトを使い、写真の色を劣化した部分を自動的に修正する。写真の色を劣化した部分を自動的に修正する。写真の色を劣化した部分を自動的に修正する。

航空機用アルミに力 熱に強い金型を活用

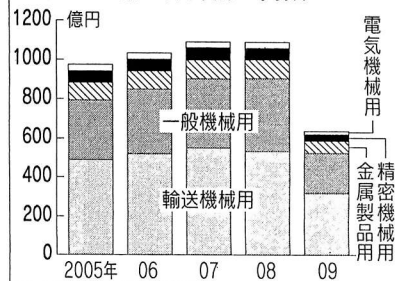
浅川熱処理

オリエンタル エン지니어リング

浅川熱処理(山梨県昭和町、斎藤基樹社長)は山梨大学などと組み、高周波でアルミを熱処理する装置を開発した。電気炉で加熱する一般的な手法だと加工に1時間半ほどかかるのに対し、新装置は数十秒で済むという。処理を施した後のアルミの強度も従来より3割高い。

電子レンジと同様に高周波で物を振動させて加熱する仕組みで、これまでは熱を放射しやすいアルミには向きとされてきた。新装置は周波数を従来の最大400キロヘルツから2メガヘルツ(200万ヘルツ)に高め、アルミが放熱する前に処理を終える。年内に量産体制を整え、アルミ部品を多用する航空機や鉄道車両向けの用途を開拓。今後数年で売上高を2〜3割増の17億円程度に引き上げる計画だ。

日本金属熱処理工業会の主要106社の加工金額と分野別の内訳



日本金属熱処理工業会(東京・港)によると、同会に所属する主要106社の加工金額のうち自動車を中心とする輸送機械向けはほぼ5割を占める。エンジンやミッションの部品がほとんどで、電気自動車に切り替わる部品点数が大幅に減り、完成車の台数が同じでも「熱処理加工の受注は4割くらい減る」(田村捷也会長)。

チタン加工など課題

たな受注獲得先として注目しているのが航空機や医療、風力発電といった分野だ。しかし、いずれもチタンやステンレスなど熱処理加工が難しいとされてきた金属に対応した技術を開発しなければならぬ。ステンレスは高温で加熱すると耐食性が損なわれる。熱処理加工する場合に通常より低い温度で加熱する工夫が必要になる。チタンは加熱すると表面が酸化するため、

従来の強度が3割高く、セ氏800度以上の熱にも耐えられる。ダライヤモンドを使用した金型でも600度が限界だった。医療機械や風力発電向けの金型の受注を見込み、売上高を1〜2年で現状の15%増の約70億円に増やす。

海外の機関が定める国際特殊工程認証プログラム(Nadcap)の取得も来年中に目指す。同プログラムに対応した設備を約1億円で導入し、品質保証や工程管理の体制を刷新。5年以内に航空機関連を売上高1億円の規模に育てる。

三重樹脂 水圧切削で新拠点

超高水圧で樹脂などの部材を切断・切削加工するウオータージェットカッター(WJC)技術の

三井物産(三井物産)は、打田昌昭社長は新工場を建設する。投資額は約8億円、年内の稼働を目指す。

会津鉄道、快速

編成 会津鉄道(福島県)は5月下旬から東武鉄道の鬼怒川線列車「AIZUMAW」新型車両を3両導入する。客サービスを向上させるため、2002年の車両は引退するため、どのイベントを検討する

北海道のラーメン店 さんぱち、韓国進出

北海道のラーメン店「さんぱち」は、韓国に進出する。釜山市内の繁華街に座席40程度の路面店を開く。みそラーメンなどの主力商品の価格を日本円換算で約500円と国内より3割安く設定し、値ごろ感を出す。1号店は直営だが、地元企業とFC契約を結びソウルなど主要都市に出店する。さんぱちは道内を中心に展開している。

5年で10店めざす

内、約70店を展開し、中国と台湾でも計10店を営業している。日本食ブームを追い風に、国内ラーメン店のアジア進出が加速している。九州地盤のラーメン店「味干」を運営する重光産業(熊本県)は、中国で約300店を展開、昨年末に韓国にも進出した。

イジェスト

蔵元26社が統一